



沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



目次

1 校長より…	10 学生の活躍
沖縄高専創立十周年を迎えてーさらなる飛躍をー……2	11 学外講師 講演会
2 卒業生へ贈る言葉	12 地域連携事業
3 卒業にあたって	13 学生会より
4 学年の学生の様子	14 寮生会より
5 インターンシップ体験記	15 後援会会長挨拶
6 就職・進学状況	16 保健室より
7 修了生へ贈る言葉	17 平成25年度学生募集結果一覧
8 専攻科修了にあたって	19 平成25年度(前期)行事予定表
9 第8回高専祭	



沖縄高専創立十周年を迎えて

— さらなる飛躍を —

校長 伊東 繁

高等専門学校は、産業界を支える中堅の技術者を育成するという目的のもとに昭和37年に創設され、その後50年を経過してきました。本校は55番目の工業高等専門学校として平成14年に開校し、平成16年4月に第一期生を迎え、本年4月には第十期生を迎えます。この間、「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する」ことを理念として、学生の教育を行ってきました。また平成22年には本科に続く2ヶ年課程の専攻科も創設され、本科卒業生は本年3月には745名、専攻科修了生も84名となっています。

本校では、15歳から5年間の一貫した技術者教育を行い、実験や実習に重きを置いた実践的専門教育を特徴としています。就職あるいは大学への編入学や専攻科への進学といった多様な進路が可能となっています。その特性を踏まえ、学年毎の段階に応じた進路指導、職業意識の涵養に努め、寮生活やさまざまな課外活動を通して自主性や社会性を養い、他者との協働を通し、人として、技術者としての力を養う全人的教育に努めてきました。

しかし、科学技術の進歩と近年の急激な産業構造の変化、国際化の進展にともない、技術者に求められる能力はより高度なものとなり、確固たる専門的基礎知識と技術力、さらには語学力やコミュニケーション能力、応用力といった、時代や環境の変化に対応しうる総合的な能力が求められています。また、国際的視野に立ち、新技術、新産業の創出を担う高度な専門的知識、技術を有するグローバルリーダーとしての役割も期待されています。本校では、これらの要請に応えるべく、海外インターンシップへの学生派遣や、海外ホームステイの実施、また海外での研究成果発表さらに海外からの長期留学生の受け入れや、外国人学生の短期留学受け入れ等を積極的に行うなどあらゆる機会を設けて、学生のグローバル化対応を行っています。

一方、これからの日本を取り巻く経済的環境はますます厳しくなり、グリーンイノベーションやライフイノベーション等が強く要求されます。その中で本校の卒業生が企業や大学などで大いに活躍していける素地を確立していきたいと思っています。次の10年に向けて、沖縄高専が時代にあった教育や地域との連携をさらに強化していき、沖縄県だけでなく広くアジアに貢献することを目指す取り組みを進めてまいります。

また万国津梁の鐘の銘文にあるように、古来より沖縄・琉球ではあらゆる国の人々と仲良く、平和共存してゆく精神があります。これからはそのような精神を益々尊重し、受け継ぎ、沖縄高専が世界の架け橋となっていけるよう、教育の大きな指針として行きたいと思えます。



5 学年学科担任
鳥羽 弘康

卒業生みなさん、卒業おめでとうございます。機械システム工学科 5 年担任として、共に卒業の日を迎えることができたことを、心から嬉しく思います。

みなさんが本校に入学してから、5 年経過している訳ですが、本校に入学した際に、みなさんが抱えていた志を達成できたでしょうか。志半ばの人、新しい目標を見つけて達成した人、今も努力中の人など、人によって、様々でしょうか。実は、5 年間という期間は、計画の基本単位でもあります。人生においても、行動計画の一つの節目を作る基本単位です。みなさんが卒業を果たしたこの時期に、是非、向こう 5 年間のみなさんの人生について真剣に考えてみて下さい。私は、この作業が、5 年後にみなさんの明るい未来を決定する要因になると信じています。

取り敢えず、頭の中にあることを整理して、将来の希望を明確に打ち出してみましょう。そして、それを実現するためのマイルストーンを定めましょう。5 年間の人生の計画が見えてくる筈です。後は、マイルストーンに到達する迄の行程を明らかにして、手抜きをせず、日々努力をしましょう。しかし、世の中、全て計算尽くで事が運ぶ保証はありません。時には、方

向修正が必要になるかもしれません。マイルストーンへの到達が不可能なことが予測できたならば、その再設定を迫られることもあるでしょう。それでも、そうこうしているうちに、落とし所を見つけ、納得のいく所に行き着くものです。今、卒業を迎えたみなさんも、同じようにして卒業に到達したのではないのでしょうか。

沖縄高専の校舎で過ごしていた皆さんは、これから、別々の道を歩んでゆくことになります。4 月から古巣を巣立つ人は、新しい生活の場において、その場に甘んじることなく、機会があれば、県内、国内はもとより、広く世界に自らの活躍の場を見出し、能力を遺憾なく発揮して下さい。そして、たまには古巣に戻り、人生の目標を見事に達成してみせたことを報告に来て下さい。楽しみにしています。

最後に、みなさんの今後の御活躍を祈念いたします。



5 学年学科主任
金城 伊智子

卒業生みなさん、ご卒業おめでとうございます。早いものでみなさんとお出会ってから 4 年が経とうとしています。情報通信システム工学科の 5 期生は私が初めて担任をした学年で、最初は何をしてよいか分からず戸惑っていたこと、それが伝わってしまいみなさんを不安にさせてしまったことを今でも覚えています。しかし、みなさんがこの 5 年の間にたくましく成長したように、私もみなさんのおかげで少し成長することができました。例えば、長いようで短い沖縄高専での 5 年間でできる限り有意義に過ごしてほしいと、私なりに手を替え品を替えはたらきかけてもそれが功を奏することはほとんどなく、最初の頃はがっかりして次の行動に移せないこともありました。ところが、実はみなさんが文句をいいつつも行動することを理解できるようになった頃には、へこんでもすぐに次の手を考え、どんどんはたらきかけていけるようになりました。

みなさんが過ごしてきたこれまでの 5 年間、そんな担任をはじめ、様々な活動とおして友達や先生、そして学外でもたくさんの人達と出会い、影響を受けながら成長してきたことと思います。みなさんはこれまでに会ってきた人達との絆を大切にしながら、これからもいろんな人と出会って成長し、他の人にも刺激を与えられる人となってくれることでしょう。

また、新たな人との出会いによって、つい他の人と自分を比較したくなる時もあるかもしれません。そんな時には、他の人ではなく将来なりたい自分像と今の自分を比較してみてください。きっと、それは現在の自分自身を見つめ直すきっかけとなり、これからやりたいことを実現していけるような自分に成長するために、今何をすべきか考えるいい機会になると思います。みなさんは素晴らしい個性を持っています。それぞれのいいところをさらに伸ばしてこれからも成長し続けてください。

最後に、人生の中では短いかもしれませんが、きっとずっと心に残るであろう 4 年間でみなさんと一緒に過ごすことができたことに心から感謝します。みなさんご家族をはじめ、これから関わる周りの人達に感謝の気持ちを忘れず、活躍し続けてくれることを願っています。



5 学年学科担任
角田 正豊

卒業生みなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは各学科でそれぞれの専門分野の知識と技術を 5 年間学んできました。5 年間（4 万 3 千 8 百時間）と言うと大変長い時間ですが、この学校での生活を振り返ってみると、あっという間に過ぎたように感じませんか。しかし、この 5 年間に確実に精神的にも肉体的にも成長し、まだ幼さが残る顔をした少年・少女だったあなた方が、いま青年の顔立ちで本校を卒業していきます。この成長に少しでも役に立てたのであれば、それは、教員として大変な喜びです。

私が 20 代の頃大変感激して読んだ本に、五木寛之の「青年は荒野をめざす」という小説があります。主人公はジャズをする東京の青年です。ジャズ仲間の「お前のはジャズじゃない」という一言に、「ジャズとは何なのか、人生とは・・・」こう自分に問いかけ始めます。この問への答えを求めて、トランペットを手に、ロシア、スカンジナビア、ドイツ、フランスなどヨーロッパの各地を巡ります。この旅の中で、麻薬中毒者、ナチ収容所生存者、同性愛者、人種差別の被害者など様々な問題を抱えた人に出会います。最後は、新大陸を目指してリスボンから船出するところで終わります。

さて、荒野とは何でしょうか。草木の緑はなく、水も少なく、極寒極暑のおよそ人が住みたいと思うような処ではありません。しかし、そこは、自分のうちを見つめ、人格を鍛える場所でもあります。古代イスラエルの民は、約束の地に入る前に 40 年間荒野をさまよいました。約束を手にするには人格が伴わなかったためです。みなさんは各々独自の才能が与えられています。この才能を正しく使うためには、それに応じた成熟した人格が必要です。みなさんは、トランペットの代わりに専門技術を手にもっています。才能と技術を生かせるかどうか決定するのは、自分自身です。快適な場所に安住せず、さあ、荒野をめざして下さい。荒野の向こう側には約束の地が待っています。



5 学年学科担任
伊東 昌章

卒業生みなさん、ご卒業おめでとうございます。私は、5 年生のみなさんが入学するのと同じ時期に沖縄高専に着任しました。みなさんと共に歩んできた 5 年間でした。生物資源工学科 5 年生のみなさんとは、担任として 3 年生から一緒にクラスの運営をしてきました。3 年生の最初は、混合学級から学科別クラスになった移行期のためか、クラスのまとまりが悪く、活気もなかったのですが、体育祭、高専祭、研修旅行と行事ごとにクラスのまとまりが良くなり、4 年生になるころには、沖縄高専で一番ではないかと思われるほど一致団結できるクラスになっていました。4 年の夏休みには、全員がインターンシップを経験し、大きく成長した姿を見ることができました。4 年後期には、「生物資源工学科学生自主製作パンフレット」を作成し、求人をお願いしたい企業 100 社に送付し、多くの企業よりその活動を高く評価いただきました。クラスがまとまって取り組んだすばらしい活動だったと思います。その後の、就職・進学活動では、とまどいながらも積極的に挑んでいる姿は頼もしくさえ思えました。そして、5 年間の学業の集大成となる卒業研究では、実験・研究の楽しさと難しさを経験したのではないかと思います。今、思い返すと、それらがあっという間に過ぎていったのではないのでしょうか？

卒業後は、就職あるいは進学とそれぞれの道に進まれると思います。それらの道には、楽しいこと、うれしいことがある反面、苦しいことや辛いことが必ず待ち構えています。そういった時には、ぜひ、沖縄高専で一緒に過ごした「友」を思い出してみてください。「友」に相談することできっと良い方向に進むことができると思います。また、みなさんの「母校」である沖縄高専の教職員がいつも遠くから見守っています。ぜひ、近くにお越しの際には、近況報告も兼ねて各先生の研究室を訪問してみてください。

これから長い人生です。自分のキャリア形成を意識しつつ、自分にとって満足のいく、豊かな人生を過ごしていきましょう。卒業生みなさんのますますのご活躍をお祈りいたします。

5 学年
上間 卓

今思えばこの沖縄高専に入学した5年前が昨日のことの様に思います。地元の仲の良い友達が皆同じ高校に進む中一人だけ高専へ、しかも初めて親元を離れての寮生活で不安でしたが、入学式中に友達ができてすぐに仲良くなることができ、安心したのを覚えています。高専生活で印象に残っているのは2年の初めのLHRです。そのとき決まっていなかった級長を決めるということで、関係ないな～なんて思っていた矢先、担任の先生から「じゃあ上間君お願いね。」と言われ、この学年だけならと思い級長の任を受けました。それがまさか最終学年まで続けるとは思っていませんでした。私はクラスをまとめる様な人物でもなく、先生方に何度も迷惑をかけましたが、ここまで続けてこられたのは個性的な「5期生機械科」の皆が支えてくれたおかげです。機械科の皆とは夜遅くまでテスト勉強したし、誕生日会もしたし、BBQもペンションにも泊まりました。レポートや課題で追われた5年間でしたが、こんなに充実した5年間を過ごせたのは5期生機械科のおかげだったと思います。4月からは就職や進学で皆別々の道を歩みますが、ここ沖縄高専で出会えた機械科ファミリーの絆は永久に不滅です！

そしてこんな私をしっかり育ててくれた家族、最後までサポートしてくださった教員の方々、家族並みにずっと一緒にいた機械科の皆、関わってくださった方々全てに感謝したいと思います。最後に言わせてください！5期生機械科最高!!

5 学年
上地 夏月

聞きなれない専門用語に使い方の分からない工具たち。何の知識も持たない状態で機械科に入学した私が、新しい環境に馴染むまでにはかなりの時間が必要でした。しかし卒業を目前にした今、日々思うのは「さみしい」の一言です。週にいくつも出されるレポートや科目数の多い定期試験、みんなで協力した体育祭や高専祭もこれで最後なのかと考えると、さみしい気持ちでいっぱいです。いつまでもこのメンバーで授業を受けることが当たり前なのだと思ってしまうくらい、5年間という年月は長く密度の濃いものでした。「学校に行きたくない」「家に帰りたい」と思うことも何度もありましたが、そんな時に支えてくれたのはクラスメイトや親しい友達、先生方、そして離れたところから応援してくれる家族でした。私一人では絶対に5年間を乗り越えることはできなかったと思います。今こうして卒業を迎えることができたのは私を支えてくれ、成長させてくれた周囲の方々のおかげです。ありがとうございました。

思い返せば勉強も含め、人付き合いが苦手な私にとって、高専での5年間は楽しいことや嬉しいことよりも辛いことや苦しいことの方が多かったような気がします。ですがその経験が今の私を作ってくれたのだと思うと、辛かった思い出たちも今でこそですが愛しく感じます。個性的で、優しく、おもしろくて、そして思いやりのある5期生が、機械科が、私は大好きです。みんなのおかげで充実した高専生活を送ることができました。

5年間で得た多くの経験と出会いに感謝するとともに、私の大事な仲間たちがそれぞれの道で夢を掴み、活躍することを願っています。

5 学年
大城 雅巧

初めて親元を離れ寮生活を経験し、今までとは全く違う環境で学生生活を始めた5年前。期待と不安でいっぱいだったあの頃も、今となっては、遠い昔のように感じてしまいます。この5年間の思い返すと、辛いことも楽しいことも日々充実した出来事で満ち溢れていました。その中でも特に、高専祭の思い出が強く残っています。クラスの中心として準備に携われた事、皆で丸となって準備に取り組めた事、共に汗を流し、一つの行事を成功裏に終えるための大変さ、終えたときの嬉しさと達成感は、私の一生の思い出です。さらに、三年生から創造研究で取り組んできたアマチュア無線を同好会に発展させ、メンバーとともに大会に出場し、多くの無線局と交信することもできました。学外でも、大勢の友人と海でバーベキューをしたり、ペンションに泊ったりと、どれも思い出に残る充実した楽しい日々を過ごせたのも、高専生活5年間という特別な環境だったからだと思っています。来年度からは、これまでの高専生活で得たことを活かし、社会に恩返しできる立派な新社会人となるよう、いままで以上に努力していきたいと思います。最後に、5年間にわたり、未熟な私達を支えて頂いた、本校教職員の皆様、保護者の方々、クラスメイトの皆さんに厚く感謝を申し上げます。

5 学年
富永 歩

中学校を卒業してから、高専に入学し、いつの間にか五年が経過しました。真新しいスーツを着て入学式に参加したのが昨日のことのようで、「もう卒業なんだなあ」と考えると、なんだか寂しい気持ちでもあります。思えばこの五年間、たくさんの人と関わりあい、助けてもらって来ました。

私は、入学当初からロボコンに所属し、同時に趣味であるバンド活動も続けて来ました。ロボコンでは夏休み中の合宿、バンドでは学外でのライブ活動など、毎日が忙しくほとんど休みがない状態でした。そんな中でも、私がこの五年間を楽しく過ごす事ができたのは、周りの人々のお陰です。自分を指導してくれた先生や先輩方、自分を慕ってくれた後輩たち、そして同級生の友達。沖縄高専内だけではなく、大会やライブを通して知り合った外部の友人也大勢います。喧嘩したり、小さいことでもめたりもしましたが、辛い時は助けてもらい、励ましてくれました。そんなみんなとの思い出がこの五年間のかけがえのない宝物です。

3月からはみんなバラバラです。沖縄にいる人達ともなかなか会えなくなってしまいます。それでもいつか、みんな立派な人になって再開した時には、これまでの五年間よりも楽しく素敵な思い出を作っていきたいと思います。五年間お疲れ様でした。関わってくれたみなさま、本当にありがとうございました。



5 学年
ヘンドラグントゥル

私は沖縄高専に入学する前に、1年間東京で日本語を勉強していました。東京で生活していた時は特に不自由がなく、毎日インドネシア人の友人と食事や通学、勉強など一緒に時間を過ごし、寂しい気持ちなんてありませんでした。その一年間を過ごしたあとに高専にきました。来たばかりのときは、同じ国の人がいなくて一人ぼっちになり、とても寂しかったです。そして、東京からきたので、辺野古の周りは自然しかないことに驚きました。

学校が始まり、私が無線やプリンタの設定に困っていたとき、知り合ったばかりのクラスメートが優しく処理センターに連れて行ってくれて、設定してもらいました。友人と一緒に遊んだり、出かけたりするうちに、寂しさはいつの間になくなっていました。

3年間はとてもはかった、気づかないうちに時間は経ってしまいました。高専祭、後夜祭、体育祭、寮祭などたくさんのイベントに参加して、たくさんいい思い出ができました。

そして、右も左も分からない私を優しく導いて頂いた先生たちにはとても感謝しています。授業や寮生活に困っていたとき、大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

今年の春に、私は電気通信大学へ3年次編入生として進学します。高専で学んだ技術を大学でも活躍したいです。卒業後、みんな色々な道に進むのは別れることではなく、新しい人生が始まるという意味です。みんなが立派な社会人になれるように頑張りましょう。また会おうね！



5 学年
前野 粒子

沖縄高専は今年で創設九年目、四月からは桁上がりして十年目の歴史を刻み始めます。ようやく十を数えるとはいえ出来たての学舎であり、私の入学の年は、ようやく一年生から五年生の全学年が揃った年でした。入学したころ、先輩方に「五年間は早いよ」とよく言われました。その意味もわからず、一年一年、学んで、遊んできましたが、過ぎてみれば本当にあったという間でした。好きだったことが大好きなことになったり、嫌いなことを少しだけ好きになれたり、好きな“だけ”だったことが私の得意なことになりました。一年生では総合美術部に入り、二年生では寮の指導寮生になり、三年生では研修旅行に行き、四年生ではインターンシップに行き、最終学年となる五年生では、就職活動や卒業研究を行いました。毎年いろんなイベントがありましたが、一つ一つ思い出が強く、どの学年を思い返しても楽しさと苦しさが半分半分です。その中で、自分の持つ夢が揺らいでしまったり、力不足でやりたいことが出来なかったりした時期もありましたが、遠いところにいる暖かい言葉をかけてくれた家族や友人のおかげで、

なんとか五年間頑張ることが出来ました。そして、今もまだ未熟ですが、高専での五年間は、もっともっと未熟だった十五歳の私を二十歳の大人にしてくれました。技術や内面の充実もそうですが、沖縄高専の五年間で一番の収穫は素晴らしい友人たちです。中学生の頃に戻って、もう一度進路選択が出来たとして、友人のためだけにまた進路に高専を選べるぐらい素敵な友達が何人も出来ました。これからの人生の中で一番の礎となるのは高専で得た技術と友人になると思います。五年間、本当にありがとうございました。



5 学年
川畑 龍平

沖縄に憧れて沖縄高専に入学し、もう5年という月日が経ちました。「あなたたちは学生です。自覚を持って自ら進んで学び、自らの行動に責任を持って行動しましょう。」と、最初に習ったことを鮮明に思い出せます。奄美出身の私は清明やうちなータイムなどの文化に驚いてばかりでした。学校生活も寮生活も24時間同じ時を過ごしていると気の合う友達ができ、そんな彼らと「定期テストは年に4回だから卒業までに20回もあるば!？」と、言っていたのがまるで昨日のようです。それも残すところあと1回となり嬉しいよりも切ない思いが込み上げてきます。

私たちが受けてきた19回の定期テストでは多くの基礎知識や専門知識を得られました。今までにどれだけノートを使っただけなんて思い出せません。私は勉強に対して積極的な方ではなかったのですが、高専生活を送って振り返ってみると座学以外でも実に様々なことを学びました。問題を解決するためにPDCAサイクルを使ってチームでまとまって作業したり、毎週のように出されるレポートを期限内で提出したり、数々の場で用意されていたプレゼンで資料を作成して発表するなど、今振り返ってみると、社会人になったときに必要とされる力を気づかずの内に学んで身につけることができていました。

高専生活では一生ものの友達も見つけることができました。周りの友達が劇的に変化した時期がありました。記憶が確かであれば、それは3年から4年にかけて起こったと思います。多くの友人の顔つきがキリッとしたり、言葉使いが改善されたり、勉強への意欲が向上した時期がありました。私の親友の一人に「あいつどうしたのかな？」と聞いてみると「大人になったんじゃない？」と言われ納得したと同時にすごく感動しました。友達と大人になる瞬間と一緒に迎えられるのは5年間ならではのものだと思います。そして、そのころになってやっと最初に習った学生とはこのように一人の人間として自覚を持って行動することか、という実感を得ることができました。遅いですね(笑)

私の5年間はあっという間という感じがしますが、その「あ」と言う間を思い返すとたくさんの経験や思い出が凝縮されています。私に勉強を教えてくださいました先生方、勉強より大切なことがあると教えてくれた仲間たち、学校に通わせてくれた両親、その他全ての方々に感謝します。5年間ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



5 学年
島袋 羽衣

卒業を目前に5年間を振り返ってみると、たくさんの思い出が次から次へと、昨日のこのように思い出されます。入学当初は、パソコンにも不慣れで「高専」そのものについていけないのが不安で仕方ありませんでした。今こうやってキーボードで原稿を打ち込んでいますが、私にとってはこれもまた、成長したなあと感じるものの一つです。

5年間の高専生活を通して、最も誇りに思うことはこのクラスに出会えたことです。まだ学科別のクラスに慣れず、すこし遠慮がちだった3年次。絆を深め合ったたくさんの行事。高専生活の集大成となった卒業研究…数えきれないほどの思い出があります。直接言葉では言いにくいのですが、私はこのクラスに本当に支えられてきました。困っている時に真剣に相談にのって、ずっと手を差し伸べてくれるクラスメイトたちには感謝しきれません。きっとこのクラスじゃなかったら、こんなにもクラス全員で笑い合えることも無かったと思います。互いに支えあい、指摘し合い、磨き合ってきた仲間たち。みんなと過ごした日々が、私を成長させてくれました。本当にありがとう。

クラスとしても5年間で大きく変化を遂げたと思います。卒業を目の前にして、たくさんの先生方に「あの5期生が卒業だなんて…」と感慨深げに声をかけられます。それほど入学当初の我々は幼く、頼りないものだったのでしょう。もちろん、そんな私たちの担任、伊東先生にはたくさん迷惑をかけました。私たちの学業に対する意識が低く、先生に叱られたこともあります。でもその一方で伊東先生がいたからこそ、私たちはここまで成長できたのだと思います。どんなことも親身に話を聞いて的確なアドバイスをくださる、そんな先生のことを我々5期生生物資源工学科は心の底から尊敬しています。伊東先生、いままで私達を支えてくれて本当にありがとうございました。

4月からはいよいよ、自分の将来に向けて自分の道を歩み始めます。大学に行き新しい環境で勉学に励む学生、専攻科に進み、より一層自分の研究に磨きをかける学生、就職し自立して歩んでいく学生。どれも道は違う方向を向いているようですが、きっと全員が「なにかの役に立つように」、そう考えながら道を進んでいくことだと思います。5年間学んだ学校に恩返しができるように、20年間育ててくれた家族に恩返しができるように、私たちはこの「卒業」という日を迎え、旅立っていきます。

本当に、ありがとうございました。

1 学年

1 学年主任
青木 久美

入学からもうすぐ1年が経とうとしています。入学当初は学校や寮生活に慣れるだけで精一杯という様子の1年生でしたが、後期に入ってから、何かと自主的に行動する姿を目にするようになりました。これには、高専祭の経験が大きかったと思われます。一致団結して頑張ることで、高専生としての自覚と自信を身につけることができたようです。

そのいっぽうで、遅刻や欠席、授業中の居眠りなどがだんだんと目立つようになってきたのはとても残念です。入学当時の緊張感と抱負を忘れずに、来年度からは一層気を引き締めて頑張ってくださいと思います。1年生担任団は、今後も、陰日向となりながら彼らの成長を支えていく所存です。今後とも、保護者の方々の温かいご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。



学校の様子（写真コンテスト★ぼくのなつやすみ）

2 学年



2 学年主任
澤井 万七美

2年生になって、後輩もできて……といううち、あっという間に学年末を迎えることになりました。この1年間、新たな挑戦をしたり、交友の輪が広がったりと、それぞれ多くのものを得たことと思います。

後期には、4クラス合同のレクリエーション大会を開催しました。各クラスのレクリエーション係が大活躍してくれたおかげで、12月19日（水）の放課後には体育館いっぱいに応援合戦の音が響き、みな大いに楽しんでいました。混合学級も今年までということで、良い思い出になったのではないかと存じます。

一方、いよいよ3年次以降の専門課程を目前にして、自分の未来を思い描く時期にさしかかってきました。2年生の後期には、そうした思いをサポートすべく、キャリア関連のプログラムを実施しております。

12月5日（水）には、本校キャリア支援室長（伊東昌章）から、本校学生の進路状況の報告と併せて、「キャリアデザイン」についての講話を聴く場を設けました。明けて1月16日（水）には、株式会社マイナビ様より香田祐介氏をお招きしての講演会を開催し、社会で生きるとはどういうことなのか、生涯賃金に関する具体的なデータ等多用した熱意あふれるお話を頂きました。さらに1月23日（水）には、クオリティ・オブ・ライフ様より4名の講師の方々においで頂き、クラス別のセミナーを催しました。そこでは、「社会人基礎力」を具体的にチェックしてデータ化し、自分の強みと弱みを知り、級友とのディスカッションを通じてその力の向上・改善を自ら考えてゆく、というプロセスを体験してもらいました。

学生たちからは、「今から自分の一生に関わる問題を考えてゆくきっかけになった」「自ら動いていかなければ、何も始まらない」という声が多く上がり、良い刺激を受けた様子です。

その一方で、残念ながら遅刻などの生活態度の緩みが一部に見受けられます。こうした甘えは、自分だけの問題ではなく、所属する組織全体のイメージダウンにつながるということを意識しながら、自己鍛錬に努めてほしいと願っています。学生たちの成長のためには、御家庭との連携が欠かせません。今後とも本校への御理解ならびに御尽力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



講話に聴き入る学生たち



香田祐介氏による講演会



クラス別セミナーでのディスカッション

3 学年主任
武村 史朗

高専生活も3年目ということで、慣れもあるかと思いますが、寮を出て自宅・一人暮らしを始め、生活環境が変わった学生もいます。学内での変化としては、3年生は専門学科別クラスとなり、専門科目が増え、進級要件が厳しくなります。3年生にとって、この一年は学習環境の変化に戸惑いながら、より高度な専門技術を修得する一年であったと思います。

3年生独自の大きな行事としては、研修旅行があります。機械システム工学科・情報通信システム工学科・生物資源工学科は関東方面、メディア情報通信工学科は関西方面へと行き、学科ごとに工場・企業見学、グループ単位での施設見学などを行う自主研修を通して、学生たちにとって良き思い出となりました。また、4年次に行うインターンシップや就職活動、進学活動を行う刺激になったことと思います。

4年には、インターンシップがあります。今年度は、インターンシップに向けた取り組みを先取りし、3年時の1月初旬に第1回目の履歴書（エントリーシート）の書き方セミナーを行いました。また、1月下旬の4年次対象の企業説明会にも3年生の積極的な参加を促しました。自分たちが学んでいる技術がどのように社会に役立っているのか、を現場の企業の方に話していただくことで、面白さに気づき、目の色が変わったように感じられる学生もいます。企業説明会などには、今後も積極的に参加を促してまいります。高専生活折り返し地点を過ぎました。就職や進路について学生は考え、悩む時期かと思えます。我々教職員も学生たちの成長の一助となるよう、取り組んでまいります。皆様におかれましても、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

4 学年主任
神里 志穂子

「自分の為に今この時間を大切に！」

センター試験や大学受験のない高専生にとって、将来の事を真剣に考え大人としての考え方、振る舞いができるよう成長する最も大切な時期が4年生というこの1年間だと感じています。今年度4年生の担任の先生方は、チーム4として一丸となって学生達の成長を支えて来ました。インターンシップ準備が始まった4月から「働くということはどういうことか」、「自分が大切にしている事は何か」、「自分が入りたい会社と自分に合う会社」、「自分はなぜそれがしたいのか」など学生自身が自分のキャリアパスを考えるきっかけを掴めるような取り組みを行なって来ました。学生の中にはインターンシップ先を決める段階で、自分が就職したいと考えている業種を決め、将来のキャリアパスを考え始めた学生もいれば、就職

を希望しているがまだぼんやりとどうするべきか悩んでいるだけで、行動まで移す事ができない学生がいるなど様々です。しかし、時間は皆に同じだけしか与えられていません。限られた時間の中で、自分の将来の為に自分の事をしっかり考えていい、この貴重な今というこの時間を大切に過ごして欲しいと思います。就職や進学を決めるこの時期は、特に社会に出る事への不安や生活環境が変わる事への不安も多いかもしれません。でも大丈夫です！働いて生活していく事は、決して楽な事ではありませんが、自分がしている仕事は、必ず誰かに喜んでもらえているはず。技術者や研究者の仕事は、華やかな仕事ではないかもしれません。でも誰かがやらなければ、世の中の皆が困るそんな仕事が多いと思います。皆さんは技術者として、社会のため、誰かのために働ける立派な社会人になれると信じています。そのために4年間頑張っ

て勉強してきたと思います。さあ、あと残り1年、高専生として勉強し、技術を身につけ、社会に出る準備を整える集大成です。「試練は乗り越えられる人の前にしか現れない」皆さんがそれを乗り越え成長し続けられるよう心から応援しています。



合同企業説明会への参加



4 学年
玉城 大暉

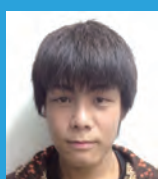
私は神奈川県にある千代田化工建設株式会社に、10 日間のインターンシップに参加しました。千代田化工建設は、「エネルギーと環境の調和を目指して」という理念のもと、世界 40 カ国以上の国々でエネルギー、化学・石油化学、医薬品、環境保全、一般産業設備などで数々のプラントを建設している総合エンジニアリング企業です。

私は将来、社会の発展に関与できる、やりがいのある仕事をしたいという思いがありました。そこで自ら企業を探し出して問い合わせることによって、大きなプロジェクトを手掛けており、世界各地の経済発展に関与している千代田化工建設のインターンシップに参加することができました。

インターンシップでは、配管設計ユニットという部署の配管設計セクション 3 と解析技術グループに配属されました。配管設計セクション 3 では、配管設計ユニットの役割やプラントを設計していく手順、そして 3DCAD の使い方を教わり、現在設計中のプラントを見て干渉やバルブの位置などのおかしい点を見つけ出す確認作業を行いました。解析技術グループでは、配管の解析・評価に必要な基礎知識を教えていただき、解析ソフトを用いて演習を行いました。演習の内容は、設計図

に基づいて配管をモデル化した後に解析・評価を行い、そこで許容範囲でない場合には、自分で設計して安全な配管にするという演習でした。演習は管路やコストなど様々な観点から考えなければならないので、広い知識が必要と感じました。最後に自分の成果を発表してインターンシップを終えました。また、休憩時や担当者の方々とのお食事で話を伺うことにより、将来について考える良い機会となりました。

インターンシップを通して、各部署や子会社、お客様などいろいろな人と関わり、コミュニケーションの大切さを実感しました。また、主に海外のプロジェクトを行っており、会社には多くの外国人がいて、英語の大切さも実感しました。インターンシップでは、会社の雰囲気、事業内容、社会生活など多くのことが学べ、将来に大いに役立つと思います。是非後輩の皆さんには目指している分野の企業を見つけ、有意義なインターンシップにして欲しいと思います。



4 学年
古波津 幸大

「沖縄発、日本の翼」。私は日本トランスオーシャン航空株式会社、通称「JTA」へ 8 月 13 日から 24 日の 2 週間のインターンシップに参加させていただきました。将来は沖縄で人を笑顔にする、生活を豊かにする仕事がしたいと考えており、自分が幼い頃、航空機に搭乗したときの喜びを他の人にも与えることができると感じたため、JTA のインターンシップに参加することを決めました。JTA は、沖縄県と本土を結ぶ航空会社として年間約 264 万人の方々に愛され続けています。

インターンシップでは、那覇空港にある JTA メンテナンスセンター内の電装整備課と第 1 点検整備課の 2 カ所の部署に 1 週間ごとの配属となり、主に機体の点検および整備作業の見学と少しばかりのお手伝いをさせていただきました。電装整備課では、主に機体の電気系統の点検を担当し、翼が稼働したことをコックピットに伝えるためのマグネットセンサーの取替えや、配線を組み直した後にワイヤーに水が入らないようにするために熱縮チューブを取付ける作業をしました。第 1 点検整備課では、数十キログラムもある翼の部品の取付けや機体のエンジン内部に損傷の有無を調べるため BSI という胃カメラに似た装置で内部の状態を確認する作業をしました。

JTA では、部品の取付け作業を終えると必ず動作確認を行いました。ボルトで留めた後も目視だけでは確認ではなく実際に触れて緩んでいないかを確認します。また、JTA はボーイング社の航空機を多く扱っているため機体のメンテナンスマニュアルはすべて英語で書かれており英文を読む能力が必要とされていました。

私はこのインターンシップで、お客様の命を預かることの「責任感」、「安全」に対する意識、機体の点検整備は一人で行うものではないため「チームワーク」の重要性、そのための日々の「コミュニケーション」の大切さ、仕事現場の雰囲気など、多くのことを学びました。

これからインターンシップに参加する皆さん、インターンシップは普段の学生生活では気付くことのできないものが多くあります。気付いたこと、学んだこと、驚いたことなど、1 つでも多く掴んで素敵な経験になるよう頑張ってください。

最後に、インターンシップを受け入れていただいた「日本トランスオーシャン航空株式会社」の方々に御礼申し上げます。



4 学年
比嘉 聖

私は 8 月 19 日から 24 日までの 6 日間、東京都港区港南にある「オムロン株式会社・東京事業所」へのインターンシップ「制御技術教育キャンプ」（国立高等専門学校機構との共同プロジェクト）に参加させて頂きました。

オムロン株式会社は、あらゆる製造現場で使用されている FA（ファクトリーオートメーション）用コントローラ、センサ、スイッチ、リレー、セーフティ機器などの豊富な製品を提供している企業です。オムロン株式会社は大学院生のインターンシップが主で、このオムロン株式会社と国立高専機構との共同教育プロジェクトである制御技術教育キャンプは私のような高専生にとってはまたとないチャンスでした。

制御技術教育キャンプの内容は、「儲かる回転寿司システムを作ろう！」というテーマを、シーケンス制御を使って実現するというものでした。初日はオリエンテーションを行い、翌日から出勤しプロジェクトの開始となりました。1 チーム 3 人構成の計 5 チームに分かれ、各チームは顧客の目線に立ち、儲かる回転寿司システムのアイデアを考え、それを実現するために奮闘しました。実習内容は、最初にアイデアの発案、システムの構想・設計を考え、次に実装・試験を行い、最終日には社員の方々と高専機構の方々へのプレゼンテーションという流れでした。構想・設計・実装では、寿司の注文を行うタッチパネル画面のデザインを行い、カラーセンサや光センサ、レーンの速度制御、シリンドーや三軸ロボットや IC タグなどを駆使したハード部分を構成し、それらを専用のソフトウェアを使って制御を行いました。様々な困難がありましたが、チームメイトと助け合い、また社員の方のサポートもあり、システムを納期までに完成させることができました。完成したシステムを備えた回転寿司レーンが動いたときは、心の底から嬉しさがこみ上げてきました。最終日に行った社員の方々と高専機構の方々へのプレゼンテーションでは、実装したシステムの説明を行い、実際に回転寿司レーンを動かしました。社員の方からの質問や意見はどれも鋭く厳しいもので、自分の実力の無さを痛感しましたが、同時に自分を見つめ直すことができました。このキャンプで得たものは、シーケンス制御技術の向上はもちろんですが、やはり一番大きかったものは、チームで作った回転寿司システムが動いたときの「喜び」です。みんなでアイデアを考え抜き、機材を構成し、ラダープログラムを組み、思った通りの動作をしたときの喜びを忘れることはありません。

これからインターンシップを体験する後輩の皆さんへのアドバイスとして、インターンシップは限られた時間しか体験できないのですから、後悔が無いように自分の力を出し切ってください。企業の雰囲気、どのような社員の方がいるか、自分の力をどのように活かすか、自分の現在の力はどのくらいかなど、インターンシップではたくさんの「アンテナ」を張りましょう。



4 学年
上江渕 有希

昨年の夏、私は東芝サマーインターンシップに参加しました。横浜で過ごした 2 週間は社会を見て視野を広げることにつながり、非常に有意義な時間となりました。

東芝インターンへの参加は自由応募で行いました。WEB でのエントリー通過後、その週の週末には東京の東芝本社で行われる面談に参加するなど応募からインターン参加が決まるまで、非常にあわただしく過ごした覚えがあります。

さて、実際のインターンですが、東芝の中でも半導体製品の製造販売を行っている、セミコンダクター & ストレージ社のメモリ事業部という部署でお世話になりました。「営業・スタッフ系」「エンジニア系」が選べる中で、『エンジニア系』を選択し応募したので、実習はプログラミングや半導体の基礎知識を用いるものでした。私はあまりプログラミングが得意ではないので、始める前は大丈夫が不安でしたが、担当者の方にわからないところは質問することで何とか実習期間内に与えられた仕事をこなすことができました。また、実習のほか初日と最終日にはほかの実習先のインターン生も集めて、グループワーク、ビジネスマナー、懇親会などを行いました。この時は専門も配属先も全く異なる人が集まるので、グループワークではどのように自分が思っていることを説明すればいいか、と全員で頭を悩ませながらも、非常にいい刺激を受けました。

この経験は、今後の学生生活の過ごし方や、社会へ出た後のことを改めて考える機会となりました。この時感じたこと、考えたこと、得たものを大切にしながら短い残りの学生生活が無駄にしないよう過ごしていきたいと思っています。



4 学年
宮里 和裕

4年生になると、企業等でのインターンシップ研修が授業の一環として義務づけられます。私は去年の8月、沖縄テレビ放送株式会で1週間お世話になりました。

私はもともとテレビ番組の製作に興味があって、先輩からのアドバイスもあり「インターンシップに行くならテレビ局だ！」と前から決めていました。インターンシップ先を真面目に選ぶ時期になったとき、学校が手続きを進めてくれる企業の中に県内でも歴史のある沖縄テレビ放送株式会社を見つけ、即決しました。

私達がお世話になったときというのは、ちょうど尖閣諸島での中国船の問題があった時期です。多くの社員の方々が報道へ出ており、とても慌ただしい状況だったのですが、研修ではとても親切に対応していただきました。沖縄テレビ放送で私がお世話になった部署は技術局でした。技術局の仕事は本当にいろいろあって、カメラ、照明、音声の操作にはじまり、映像の編集、局内施設の管理など多岐にわたります。それぞれに深い専門知識を持つ方々が役割分担されています。しかし、例えば照明を担当している社員の方がときにはマイクを持ったり、カメラを操作したりする場合もあり、この職業の幅の広さや奥の深さに舌を巻きました。研修の中でも特に印象に残ったのは、毎週土曜日に生放送される「ひーぼー☆ホップ」のセットの設営を手伝わせてもらったことでした。普段ならセットはできあがった状態で見えるものですが、その前の段階を実際に見ると「照明ってこんなにたくさん使われているんだ」とか「テーブルのセットってこういう造りになっているんだ」とか、いろいろな発見がありました。手伝いの中で何度も言われたことは、「入れ物から出した機材は、“必ず” もとの入れ物に戻すこと」でした。スタジオ内で使用されている機材はどれも高価なものです。これらが無くなってしまうたり、壊れてしまわないように機材はとても大事に扱っていると聞きました。社員の方々の機材への思いやりの気持ちを学びました。

もともと興味のあったテレビ業界での研修は僕にとってものすごく有意義で、とても楽しい1週間でした。どうせ行くなら、行ってよかったと思うところへ。後輩のみなさんにはインターンシップは是非、「自分が行きたい！」と思うところへ行行って欲しいです。そのために、なるべく早く自分の行きたいこと、進路を考える必要があると思います。



4 学年
兼城 優

私はインターンシップで株式会社沖縄ソフトウェアセンター（OSC）と日本バイナリー株式会社にお世話になりました。

OSCは学校で開かれた企業説明会で知りました。県内外のIT企業45社の協力により発足された技術支援サービスなどを行っている企業です。ここでの研修では、実際にクライアントから依頼があったWEBページの作成作業を行いました。提示されたレイアウトに忠実に、しかし、改善した方が良さそうな点があればクライアントに提案する、納品書・作業のチェックリストの書き方など、実習を通して得られた知識はどれも今後就職後に活かせるもので、とても充実していました。毎日の終業時間前の報告会も初めは緊張しましたが、企業の方から直接アドバイスをもらったり、意見を交換したりする機会はそう多くないので積極的に取り組みました。

次にお世話になった日本バイナリー株式会社は自己開拓で見つけました。医療機器・映像関連機器・ロボットなどを扱っている企業です。私は医療機器の開発に興味があったため、インターンシップ研修の受け入れをお願いしてみたところ、快く引き受けてくださいました。ここでの研修では、企業で扱っている感覚デバイスの制御プログラムの作成を行いました。学校でのプログラム演習とは勝手が違い、初めは戸惑いましたが、制御に成功した時はとても大きな達成感が得られました。今回行った制御を応用していく事で遠隔医療を可能にするシステムを作っていくことも可能であると企業の方から教わった際、高専での演習が将来このような形で活かされていくのだというビジョンが見られた気がしました。この感覚は是非ともこれからインターンシップに臨む学生に感じてきてほしいものです。

インターンシップ研修以前にも、企業への電話、自己開拓、一人での上京など、初めてで心配だった事は沢山ありますが、思い切って挑戦して良かったです。貴重な経験をさせて頂いた企業の方々に、研修に至るまでの支援をして頂いた関係者の方々に、心より感謝しています。



4 学年
多田 一風太

就職を希望していた私は、県外就職と県内就職で迷っていました。そのため、県内企業と県外企業それぞれ1社ずつインターンシップを体験し、進路決定の参考にしようと考えていました。

県内企業として、興味があるバイオインフォマティクスについて学ぶため、株式会社バイオジェットインターンシップにいききました。バイオジェットは先端バイオ技術を武器に、小人数で研究開発・受託分析を行っています。5日間のインターンシップには決まったプログラムがなく、その日の状況に合わせて臨機応変な対応をして頂きました。バイオインフォマティクスについては、社員のシャドーイング、専門機器の見学などを通して、学術ではない実用的な専門知識を学ぶことができました。沖縄のバイオベンチャーがどのような仕事をしているのか、バイオジェット独自の雰囲気、県内で就職するとはどういうことなのか、アットホームな沖縄らしい空気の中で多くのことを学ぶことができました。

県外企業として、大手企業に興味があったため、三洋化成工業株式会社インターンシップにいききました。本来は5日間のインターンシップでしたが、台風の影響で残念ながら3日間しか体験することができませんでした。三洋化成は、企業間取引を主な事業としており、化学製品の原材料などを製造しています。私は名古屋工場にて、大きな工場で多くの原料が同時に製造される様子を見学することができました。製造原理や配管の仕組みなども学びましたが、最も重点を置いて説明して頂いたのは、安全の大切さです。一定の品質の商品を期間内に納品するためには、従業員が安全に作業をすることが大前提のためです。工場内を安全に過ごすために、行動の習慣化やマニュアル化、相互指摘など様々な工夫がされていました。最終日には学んだことを発表するグループワークもあり、完成されたインターンシッププログラムを体験することができました。

事業内容、社員数、社風など、大きく異なる2社のインターンシップを体験することで、各企業の特徴を理解することができました。2社のインターンシップを通して、就職希望だった私の考えは、進学に変わりました。知識の重要性や、学生だからできることの魅力に気づいたためです。進学してもっと多くの世界を見てまわり、見聞を広め、どのようなタイプの企業に就職するか考えていきたいと思います。

学校では学ぶことができない多くのことを感じとることができた、充実したインターンシップ体験となりました。



4 学年
大濱 公子

私は将来、食品関係の会社に就職を考えていたのでこの機会に、社風や工場での業務などを学んで吸収できればいいなと思い、研修先を茨城県にあるキューピー株式会社五霞工場で5日間お世話になりました。キューピーといえばマヨネーズやドレッシングなどの調味料のイメージが強いと思いますが、その他にも栄養補助食品やベビーフードも製造しております。

研修内容として、1日目は、企業学習、安全講習、工場・社員寮の案内などをしました。ドレッシングの深入りごまドレッシングを主に製造している部署で、ドレッシングの製造過程を見学し、ドレッシングの原料の秤量、箱詰め、ボトル補充など多くの業務をさせていただきました。工場内に入るときは、作業着と毛髪が落ちないようなぼうしをかぶり、靴も専用の安全靴をはくことが原則でした。また、工場の入り口には、作業着に付着したゴミを取り、手を洗い・アルコール消毒をし、送風による除菌を行わないと入れない仕組みになっていました。食品会社での徹底した商品への配慮が感じられました。また、研修期間中は、朝昼晩の3食とも社員食堂でご飯を食べさせていただき、社員寮をお借りしての生活でした。

キューピーの社風は、全員があいさつをきちんとする。また、正社員と非正規雇用の方の区別がつかないくらいに仲が良く、昼食はいつも違う方々と食事したのですが、毎日違う話題で盛り上がりました。話をした方々は、仕事を誇りに持っているように感じました。一日の業務が終わると、部長さんとマンツーマンで反省会を行いました。私が工場内での疑問やキューピーについて部長さんが丁寧に答えてくれました。また、この研修を通して、働くこと、ものづくりの大変さについて聞くことができ、充実した5日間となりました。

私は、今回の研修で、一人で初めて県外に行き、また、台風の影響もあり日程を大きく変えることになったので、研修に対し、不安を感じていました。しかし、一人で県外にいることを忘れるくらい充実し、様々な事を学ぶことができた5日間だったと感じました。この研修では学校では教わらない考え方やものづくりについて非常に貴重な経験ができました。この経験を活かし、今後の就職活動に活かしたいと思います。

【平成25年3月卒業予定者の進路状況】

沖縄高専では、平成 25 年 3 月に 140 名が卒業する予定で、うち 63 名が進学、77 名が就職を希望しています。
各学科ごとの進路決定状況は下記のとおりです。

◆就職・進学内定状況◆

平成 25 年 2 月現在

	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	合計
卒業予定者	33	31	40	36	140
進学希望者	14	13	15	21	63
合格者数	13	13	15	20	61
大学 3 年次編入等進学	5	3	6	9	23
専攻科	8	9	7	10	34
沖縄高専研究生					0
その他		1	2	1	4
進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)	92.9%	100.0%	100.0%	95.2%	96.8%
進学先※ 1	長岡技術科学大学 (2) 九州工業大学 豊橋技術科学大学 琉球大学	九州工業大学 琉球大学 武蔵野美術大学 専門学校那覇日経ビジネス	電気通信大学 豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学 琉球大学 (2) 武蔵野美術大学 ユニバーシティ・オブ・ザ・ピープル 広島コンピュータ専門学校	九州工業大学 琉球大学 (2) 岡山大学 岐阜大学 (2) 東京農工大学 長岡技術科学大学 京都府立大学 専門学校日経ビジネス	
就職希望者数	19	18	25	15	77
内定学生数	15	18	24	15	72
内定率 (内定学生数 / 就職希望者数)	78.9%	100.0%	96.0%	100.0%	93.5%
内定先企業名 (県内) 県内に本社のある企業 ※ 1	沖縄電力株式会社 株式会社ベアック沖縄 沖縄製粉株式会社 日邦メタルテック株式会社	沖縄グローバルシステムズ株式会社 沖縄東芝メディカル株式会社 株式会社メディアトランスポート	沖縄日立 ネットワークシステムズ株式会社 株式会社リウコム 株式会社シーエー・アドバンス 株式会社エスアールデザイン	沖縄明治乳業株式会社 オキコ株式会社 株式会社沖縄ホーム	
	計 4 名 就職者に占める割合 26.7%	計 3 名 就職者に占める割合 16.7%	計 4 名 就職者に占める割合 16.7%	計 3 名 就職者に占める割合 20%	県内計 14 名 就職者に占める割合 19.4%
内定先企業名 (県外) ※ 1	東京計装株式会社 ダイキン工業株式会社 花王株式会社 (2) 矢崎総業株式会社 三洋化成工業株式会社 (2) アイシン精機株式会社 新日本製鐵株式会社 株式会社中央エンジニアリング カンメタエンジニアリング株式会社	ダイキン工業株式会社 (2) 東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海) 富士通株式会社 株式会社協和エクシオ ムラテック CCS 株式会社 シャープ株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ・ネオメイト 出光興産株式会社 リコーテクノシステムズ株式会社 京西テクノス株式会社 株式会社シーエー・アドバンス 株式会社東芝 社会インフラシステム社 大同薬品工業株式会社 株式会社デジタルデザインサービス	ニフティ株式会社 株式会社協和エクシオ 富士ゼロックス福岡株式会社 株式会社富士通九州システムズ株式会社 トヨタコミュニケーションシステム (2) 出光興産株式会社 (2) 日立 INS ソフトウェア株式会社 株式会社ルクレ 株式会社富士通 アドバンスソリューションズ アイエックス・ナレッジ株式会社 (2) 株式会社ビットサーフ 日立情報通信 エンジニアリング株式会社 株式会社光通信 株式会社エー・シー・エス 株式会社アプリカ 大同薬品工業株式会社 株式会社シーテック	第一三共プロファーマ株式会社 ダイキン工業株式会社 (2) 三洋化成工業株式会社 (3) 雪印メグミルク株式会社 サントリープログラックス株式会社 東洋製罐株式会社 DIC 株式会社 日本乳化剤株式会社 大同薬品工業株式会社	
	計 11 名 就職者に占める割合 73.3%	計 15 名 就職者に占める割合 83.3%	計 20 名 就職者に占める割合 83.3%	計 12 名 就職者に占める割合 80%	県内計 58 名 就職者に占める割合 80.6%
求人数※ 2 (求人票の送付のあった企業の数)	293	293	229	195	

※ 1 同一企業から複数名の学生が内定を受けた場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その合格数をかっこ () 内に示しています。

※ 2 求人票については、学科指定のある場合はその学科にカウント、学科不問の場合はすべての学科にカウントしています。

【求人票提出企業】 県内企業 44 社 県外企業 276 社

【平成25年3月修了予定者 (専攻科3期生)の進路状況】

沖縄高専では、平成25年3月に専攻科25名が修了する予定で、うち9名が進学、16名が就職を希望しています。
各コースごとの進路決定状況は下記のとおりです。

◆就職・進学内定状況◆

平成25年2月現在

		機械システム 工学コース	電子通信システム 工学コース	情報 工学コース	生物資源 工学コース	合計
修了予定者		7	7	4	7	25
進学 内定 状況	進学希望者	2	3	1	3	9
	合格者数	2	3	1	3	9
	大学院進学	2	3	1	2	8
	その他				1	1
	進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	進学先※ 1	大阪大学大学院 神戸大学大学院	奈良先端科学 技術大学院大学 豊橋技術科学 大学院大学 琉球大学大学院	首都大学 東京大学院	京都大学大学院 琉球大学大学院 茨城大学	
就職 内定 状況	就職希望者数	5	4	3	4	16
	内定学生数	5	4	2	4	15
	内定率 (内定学生数 / 就職希望者数)	100.0%	100.0%	66.7%	100.0%	93.8%
	内定先企業名 (県内) 県内に本社 のある企業※ 1	拓南商事株式会社 拓南製鐵株式会社	沖縄セルラー電話 株式会社	沖縄テクノス 株式会社	沖縄ハム総合食品 株式会社 沖縄県農業協同組合 (JA おきなわ)	
		内定学生 2 名 内定者に占める 割合 40%	内定学生 1 名 内定者に占める 割合 25%	内定学生 1 名 内定者に占める 割合 50%	内定学生 2 名 内定者に占める 割合 50%	内定学生 6 名 内定者に占める 割合 40%
	内定先企業名 (県外) ◎は沖縄県内に 支社または 事業所がある 企業※ 1	アイシン精機 株式会社 株式会社 ジェイテック テーブルマーク 株式会社	東京計装株式会社 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション コベルコシステム 株式会社	リクルート 株式会社	旭化成株式会社 大同薬品工業 株式会社	
		内定学生 3 名 内定者に占める 割合 60%	内定学生 3 名 内定者に占める 割合 75%	内定学生 1 名 内定者に占める 割合 50%	内定学生 2 名 内定者に占める 割合 50%	内定学生 9 名 内定者に占める 割合 60%
	求人数※ 2 (求人票の送付の あった企業の数)	234				

※1 同一企業から複数名の学生が内定を受けた場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その合格数をかっこ()内に示しています。

※2 求人票については、学科指定のある場合はその学科にカウント、学科不問の場合はすべての学科にカウントしています。

【求人票提出企業】県内企業 39 社 県外企業 195 社

専攻科

修了生へ贈る言葉



専攻科長
三枝 隆裕

専攻科の第3期生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。

本科5年間、専攻科2年間の長い間、1期生、2期生のお手本もあり、沖縄高専の教育課程を無事に修了致しました。振り返ると、勉学、部活、イベントなど多くの思い出が脳裏に浮かんでくると思います。専攻科1

年次は、研究に打ち込み、専攻科2年次には、進学・就職活動と並行して、難関である大卒資格獲得のため学位授与試験対策に、夏休みのほとんどを費やしました。10月初めに、特別研究内容をまとめた学修成果レポートを学位授与機構に提出し、それに基づいた小論文試験を12月に福岡で皆と受け、2月中旬までドキドキで合否を待っていた結果、1期生、2期生に引き続き、3期生も全員学位を取得することができました。学生の皆さんの多大な努力並びに教員の熱心で高度な指導の賜物と感謝しております。

また、皆さんの特別研究の成果は、6ページに渡る論文としてまとめ、専攻科特別研究論文集として仕上がっており、全国の高専に配布されます。

専攻科は、7年間の継続的教育を生かし、複合的・実践的なカリキュラム及びより高度で専門的なカリキュラムを通じ、複合的な専門性を備えた創造的実践的な課題解決型の技術者を育成することを目指しています。さらに、本科からの一貫した研究指導、現実的な課題の解決策探求教育、PBL教育、他学科との共同作業、自分で学習し問題を解決する能力の育成などで創造的実践力の育成を図っています。これらの教育による実績は、高度な進学先就職先として現われており、将来に渡って創造性の礎となることを願っております。

進路に関しては、沖縄高専では、1期修了生27名に対して進学12名と就職15名、2期修了生32名に対して進学15名と就職17名、3期修了予定生25名の希望は進学9名と就職16名と就職の割合が高くなって来ています。進学実績では、大学院入学試験の受験、専攻科推薦枠も活かして、東大、京大、阪大などへの大学院進学が達成され、就職では、一部は大学生との競争になりますが、専攻科推薦枠の活用も有り、旭化成、沖縄セルラーなど県内外の有名企業の専門を生かせる職種へ就業ができています。

現代社会は、東日本大震災、原発事故によるエネルギーの見直し、機器の高度化、食糧・環境問題、医療問題、高齢化社会など多くの問題を抱えています。これらの問題を解決するため、高専で学んだ専門知識や技術を用いた新しい技術開発はますます必要となってきております。皆さんには、これら高度な技術を磨くことに加えて、国際性、人間性、協調性、創造性もさらに培っていただき、企業や公的機関の中心人物となって成長されることを心から願っております。

機械システム工学コース



2 学年
名 幸 寿

沖縄高専の「図書館」・「テニスコート」、この2つが私にとってはかけがえのない心のオアシスとなりました。今回は修了にあたって、そのような心の支えになってくれた場所を紹介したいと思います。まず、「図書館」について紹介しよう。沖縄高専の図書館はとにかく雰囲気最高！雰囲気、まさにこれにつきます。図書館に入館した際に出迎えてくれる図書館員さんの温かい笑顔、もう何をとっても満点です。そんじょそこのカフェよりも何よりも落ち着きます。しかし、テスト期間中の図書館には要注意。ちなみに私のお気に入りの場所はとある専門コーナーの白い壁の上です。イライラしたとき、悲しいとき、勉強に飽きてしまったとき、そんなときに私の心を支えてくれたのはいつでも図書館でした。ありがとう、図書館。次にもう一つの心のオアシス、「テニスコート」について語りましょう。いや、違いますね。語りましょうと張り切ってしまいましたが、これはあえて語るよりも行くが早し、とします。語るだけでは表現できない程の癒しと輝きがあるのです。某、歌手の歌詞を借りて表現すると、凄すぎて、凄すぎて、言葉にできない♪といった感じです。とにかく、修了するにあたって何よりもまず、このテニスコートへのお礼をここに記したかったのです。テニスコート、ありがとう。この依頼文が来た時から私はこれだけは記そうと心に決めていました。そのため、私はもう思い残すことはないと言える程の充実感を持って修了式を迎えられました。このようなチャンスを下さった、先生方、事務員様、そしてお世話になった人々へのお礼を記して私の文面を終了しようと思います。本当に7年間ありがとうございました。ただの自己満足な感じの文章でしたが、最後まで読んでくださった方もありがとうございました。テニスコート、図書館、また会う日まで・・・それでは失礼致します。

電子通信システム工学コース



2 学年
岸 本 亨 太

こんにちは。専攻科の宮迫博士と岸本亨太です。「専攻科どうだった？」と聞かれたら僕は間違いなくこう答えます。「しにつまらなかった」と。ごめんなさい嘘です！とても楽しかったです！僕は専攻科に進学してとてもよかったと思っています。後悔したことはありません。なぜなら専攻科は、就職した人や他大学に編入した人と比べて、とても多くの経験をさせて頂いたからです。例えば、学会発表で県外や海外に行かせて頂きました。専攻科には学会発表支援という旅費を援助して頂く制度があります。僕はそれを利用して、専攻科の間に県外で3回、海外で1回発表しました。行く先々の名物を食べ、文字通りおいしい思いができました。海外(タイ)では、ボッタクられたり下痢が止まらなかったりと海外の洗礼を受けることが出来ました。3期生の専攻科では6人ぐらゐ海外に行っていたんですけど、一番辛い思いをした自信があります。他にも楽しかった思い出としては、少ない仲間と楽しく過ごすことが出来たことです。本科の時はあまり関わらなかった友達や後輩とも仲良くなることも出来ました。そのおかげで専攻科に進んで友達が少なくなっても、楽しく学生生活を送ることが出来ました。みんなありがとう！これ以外にも書き切れないほどの楽しい思い出があります。最後に、僕はこれまで専攻科の楽しいことばかり書いて来ましたが、もちろん辛いこともありましたよ。でも、それでも楽しく過ごせるかどうかは自分次第です。人生を楽しみましょう！僕はこれからの新生活を想像すると楽しすぎてヨダレが止まりません(ジョル)以上！専攻科のステマでした！

情報工学コース



2 学年
兼 城 駿 一 郎

私は本科の5年間と専攻科の2年間、合わせて7年、これまでの人生の三分の一も高専で過ごしてきたことになります。幼い頃の記憶はほとんど無いので、私の記憶の大半は高専生活といっても過言ではありません。7年間、ほんとうに様々なことを経験することができました。親元を離れての寮生活、進度も早くて内容も深い授業。はじめのうちこそ戸惑いましたが、次第にこの環境の素晴らしさに気づき始めました。中学生のうちに進路を定めて高専に進学してきた素晴らしい学友達、沖縄高専の文化を築きあげてきた先輩方、そして企業経験や研究経験が豊富な先生方。日常のちょっとした会話からも多くの学びを得ることができました。イベントや大会などに関わる機会も多く、イベント実行委員として企画・運営をリードしたり、プログラミングの全国大会で優秀賞を獲得したりなど、素晴らしい経験を積むこともできました。優秀な学生や素晴らしい先生方、そしてとても良い環境に恵まれたからこそ、ここまでの経験をする事ができたのだと思っています。また、高専は1年生から7年生までいるので、幅広い年代の学生たちと議論を交わしながら共闘したり切磋琢磨したりすることができました。高校1年生相当から大学4年生相当までの学生が共通の空間で学び合えるというのは高専の良さのひとつだと実感しています。高専生活最後の1年は、これまでの実績や高専の知名度のおかげで企業の方や他大学とも多彩なコラボレーションをすることができました。一般に「高専は隔離された場所に籠っている」と評されることもありますが、「そんなことはない」と胸を張って言えるような体験だったと思います。スカウトされるようなかたちで就職先がスムーズに決まったのも高専で学んだ結果だと感じています。心から素晴らしい7年間でした。今後は本校で学んだ様々なことを胸に、更なる飛躍を目指して尽力していこうと思っています。最後になりましたが、お世話になった先生方や仲間達に感謝申し上げます。

生物資源工学コース



2 学年
波 照 間 さ や か

先生方をはじめとして多くの方に支えられて、有意義な7年間の学生生活を過ごすことができました。本当に本当に……ありがとうございました！私たちはここで学んできたこと支えにして、全員が「沖縄高専の卒業生」であることに誇りをもってこれからそれぞれの路を進んでいきたいと思っています。

以下に生物資源工学コースの修了生からの言葉を記載させていただきます。

- ここに思い出の全部を書き出すのは難しいですが、寮生活初日の緊張した自分に今となっては懐かしさを感じます。7年間を通して、周囲の人との協力、感謝の心、人として大切なものを得ることができました。(具志堅央)
- この7年間で様々な人と出会って感じたこと、「あいさつ」から始まるコミュニケーションがとても大事なことです！沖縄高専のあいさつあふれる校風を維持して、毎日を全力で楽しんでください！(祖納元りえ)
- 高専で過ごした7年間は、振りかえると長い時間ですが、あっという間でした。充実した時間を過ごすことができたのは、友達や先生方、家族の支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。(富山瑛子)
- 専攻科では、時間割に余裕ができるため、卒業研究では取り組みなかったことに挑戦できました。その結果、様々な学会で発表し、違う分野の人との関わりができ、とても貴重な体験ができたと感じています。(富山未樹)
- 「楽しいことと楽なことは違うのだ」「体力は大事！」と学んだ7年間。本科とは異なる環境で、専攻科全員が女子だけという異色のメンバーでしたが、遊ぶのも学ぶのも全力で取り組んできた、とても充実して楽しい日々でした。(波照間さやか)
- まだ新しい寮の匂い、ちょっとよそよそしい同級生、全然様になっていない白衣、昨日のことに思い出出すことができます。この場所を離れ、全く別の生活をそれぞれ送っていくのが信じられない、というのが正直な気持ちですが、沖縄高専の卒業生として胸を張れるよう、この先も頑張っていきたいと思っています。(羽地琴野)
- 私は、中学の理科教師になるために大学の教育学部へ3年次編入します。決断当初はものすごく悩みましたが、真剣に考えてたどり着いた結論なので後悔はしていません。言いたいことは、「進路で悩んでいる皆さんが真剣に考えて出した答えはきっと後悔のない正しい選択となるはず」ということです。今、一生懸命悩んで、これからの人生を笑顔で過ごせるよう頑張ってください！(外間絵海)

第8回高専祭 -2012-



こんにちは。第8回高専祭実行委委員長を努めました、生物資源工学科4年の伊良部寛規です。

沖縄高専では去る11月10日・11日に「**CREATE ∞ 技術のオンパレード**」のテーマの下に第8回高専祭が開催されました。

今年度のテーマには、高専生として学業や部活動、そして高専祭においても日々培ってきた様々な技術を一人ひとりが高専祭という舞台上で精一杯表現しようという意味が込められています。

高専祭当日を迎えるまでの過程で、今年は予算の少ない中高専祭実行委員が中心となって学生を引っ張り、各出し物への対応、器具の徴収、プログラムの組み合わせなど高専祭の運営を行なってきました。台風によるオーディションの遅れや屋台設営の規定改正などの様々な壁がありましたが、当日はテレビ局出演のおかげもあって、これまでの高専祭来場客数の最高人数である、のべ3000人の来場者が高専祭に足を運んで下さいました。

私自身、高専祭実行委委員長として力不足な部分もあったと思いますが教職員の方々、そして何より半年間頑張ってきた実行委員の仲間のおかげで高専祭を終えることができ、達成感と高専祭を無事に成功に収めることができたことをとても嬉しく思っております。

最後に、この高専祭を成功に収めるにあたり実行委員を初めとした学生全員を影から支えて下さった教職員、スポンサーとして高専祭の運営にご協力頂いた企業の方々、辺野古住民の方々、来場者の皆様、その他高専祭に携わって下さった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

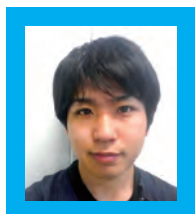
来年度以降の高専祭も今年度以上に盛り上げられるよう、後輩が中心となって頑張っていきますので、これからも高専祭にご来場くださることを楽しみにしています。



CREATE ∞ 技術のオンパレード

～ロボット製作委員会～

機械システム工学科 3 学年 平山 慶太



私は沖縄高専に入学した時まで、高専ロボットコンテストという大会の事を知りませんでした。ただ、入学したらなにか形あるものをたくさんの人と作ってみたいと考えていました。

2008 年には全国大会で優勝した事があるらしい、きっと凄い部活なのだろう。そう思い 2010 年に入部した私はやはり凄い部活だと感じました。そこで活動している先輩たちはみな、毎日毎日門限ギリギリまで活動を行い、睡眠時間や空いている時間を削りロボットを作り上げていたのです。たくさんの情熱を持った人のいる部活だと感動したことを覚えています。残念ながらその年は地区大会ベスト 8 で終わってしまいましたが、ここで勝ちたいという気持ちを強く持つようになりました。

2011 年には素晴らしいチームに在籍することが出来ました。毎年製作委員会から 2 つのチームに別れ大会へ参加するのですが、私が参加した A チームは全国優勝を目標とし、全員が心を一つに邁進する、とても楽しくとても充実したチームでした。しかしそんなチームでも地区大会一回戦に負け、全国優勝にはおおよびませんでした。自身の持つ記録では全国優勝も夢ではないロボットを作っていただけにとても悔しかったです。

そして 2012 年には自分がチームリーダーとしてチームを引っ張っていく立場となりました。ただ自分が理想として掲げたチームには遠く及ばないチームとなってしまいました。どのように多くの人からでるアイデアをまとめたら良いのか、どのような日程で活動を行ったら良いのか、どのようにみんなに自分の考えを伝えたら良いのか多くのことで悩みました。チームリーダーを経験し自分の先輩方がいかに偉大で、遠い存在なのかを実感しました。

そんな私も 2013 年には部長とチームリーダーを兼任する存在となりました。昨年の反省を行い、自分なりにどうすれば全国大会へといけるのか答えを考えだしました。それがあっているかわかりませんが、先輩方が残してくださった『夢創人』という文字のように、全国大会への『夢』を叶えるロボットを『創』る『人』となれるようチーム全員でよりいっそう努力を積み重ねて行きたいです。



全国高等専門学校体育大会に参加して 一水泳部一

情報通信システム工学科 2 学年 金城 優生

2012 年 7 月、大分県で九州・沖縄地区高専体育大会(水泳競技)が行われました。女子 50m バタフライ(1 年濱元幸)、女子 100m 自由形(1 年濱元幸)の 2 種目で 1 位、女子 100m 平泳ぎ(2 年金城優生)の 1 種目で 2 位という成果をあげ、8 月に広島県で開催される全国高専体育大会に出場することになりました。

私は 100m 平泳ぎに出場しましたが、予選落ちという残念な結果になってしまいました。しかし、力のある新入部員の 1 年生の濱元幸が 50m バタフライにおいて、予選通過・決勝 5 位という素晴らしい成績を収めてくれました。

水泳部は 2 年連続全国大会に出場しています。私は昨年度も全国大会に出場したのですが、初めてということもあり、他高専の方々と交流することがあまりできませんでした。しかし今年度の全国大会では、開会式後に九州チームで円陣を組んだり一つになって応援をしたりと、沢山のふれあいをもつことができました。また、昨年度も出場していた他高専の方とこれまで以上に仲良くなることもできました。

このような素晴らしい体験ができたのは、全国大会に伴い資金支援をして下さった保護者の皆様、教職員の皆様、学生会の皆様、毎日の練習をサポートしてくれた顧問教員の方々のおかげです。心よりお礼申し上げます。

これからも皆様からのサポートを忘れずに、練習に励んでいきたいです。どうぞ今後とも水泳部をよろしくお願い致します。



パソコン甲子園に参加して

メディア情報工学科 3 学年 照屋 大地



私は3年生の呉屋くん、2年生の西原さんとともに、チーム「フレッシュオリティー」として2012年11月に福島県の会津若松にて行われたパソコン甲子園のモバイル部門本選に参加しました。モバイル部門は今大会から新設された部門です。事務局から発表されるテーマに基づいてAndroidアプリケーションを作成し、予選を通過すれば会津大学にてプレゼンテーション・デモンストレーション審査を通してアプリの企画・開発力を競います。

今大会のテーマは「スポーツ」でした。4月からチームでアイデアを出し合い、7月に企画書を作成しました。初めて挑戦する「アイデア出し」では何日もアイデアが固まらず大苦戦で、企画書提出は期日ギリギリとなり怒られながらの提出となってしまいました(笑)。企画提出後は、そうして考えたアイデアを実際にアプリケーションとしてプログラミングします。事務局から1台貸与してもらえ、Android搭載スマートフォンと普段使っているスマートフォンを用いて開発していきました。Androidアプリ開発も初めての挑戦で画面レイアウトの作成や細かい機能の実装に非常に苦労しました。開発経験のある先輩たちの助けも借りながらなんとかアプリを完成させ、本選に挑むことができました。

パソコン甲子園の直前にはほかの大会にも別な企画で出品しており、パソコン甲子園の本選ではそこでの反省点を踏まえて挑みました。プレゼン・デモはしっかり練習を積み、ブースも見た目からこだわり、パンフレットやデモ動画まで作成した万全の体制での挑戦でした。その結果、フレッシュオリティーはモバイル部門のグランプリを受賞！出場できる最後の大会で、最高の結果で終わることができました。

初めての挑戦ばかりで失敗も多くありましたが、それらはこれからの活動に活かせるような収穫になったと思います。パソコン甲子園は最後になりましたが、さらに大きな結果を目指して挑戦を続けたいと思います。



西日本地区高等専門学校弓道大会に参加して

生物資源工学科 5 学年 島袋 羽衣

2012年度、沖縄高専弓道部は、福岡県北九州市で行われた西日本地区高専大会に参加しました。全国的にみて弓道部のある高専は少ないため、九州大会といった地区大会はありません。そのため東日本・西日本それぞれで行われる本大会が、わたしたち5年生にとって5年間の集大成とも言えます。昨年に引き続き2度目の挑戦となる我々5年生には気合の入る大会でした。

しかしながら、大会初日は当初の日程を変更するほどの豪雨。また、他高専の人数に圧倒され、教員を含め6名で挑んだ沖縄高専弓道部はとても緊張していました。そんな中、いつも丁寧な指導をしてくださる田中先生が、このときも頻繁に我々に声をかけてくださり、いつも通りの調子で射に集中することができました。

結果として、私自身、昨年度なし得ることができなかった女子個人の部3位という成果を収め、最後の高専大会を締めくくることができました。しかしながら、5年間共に部活に励んだ同級生と挑んだ女子団体の部で良い結果を収められなかったことが、本大会の悔しい点でもあります。この悔しさは、後輩たちが晴らしてくれることを期待して、我々5年生は今年度で引退します。

5年間、弓道部の活動を通して、技術面もメンタル面も大きく成長することができました。これは5年間ともに部活に励んだ同級生、活動をサポートしてくれて保護者の皆様、そして指導にあたってくださった眞喜志先生、田中先生のおかげです。本当にありがとうございました。



自転車部の活躍

機械システム工学科 1 学年 青木 隆志



自転車部は今年度から同好会から部へと昇格し、3年生5人、1年生2人の合計7人の部員がいて、競技志向の人からサイクリングを楽しむ人など自分のレベルに合わせて活動しています。今年度の成績はインターハイ九州大会2人出場、インターハイ全国大会、国体に先輩が出場と好成績を残すことができました。

自転車競技はまだマイナースポーツなのでどのような競技なのか想像がつかない人も多いかと思いますが、基本的には、自動車が走るような道を走り順位、タイムを競う、ロードレース、競輪場で競い合うトラック競技があり、ロードレースに関しては大会ではだいたい100km前後を平均時速30km/s以上で走り続けます。トラック競技は短距離、中距離、団体や、一対一での競い合いなど様々な種目があり、最高速も60キロを超えるので見るだけでもとても楽しいです。

ロードレースの頂点、ツール・ド・フランスは陸で一番過酷な競技といわれており、ロードレースは体力、知恵、そして根気がすべて必要になってきます

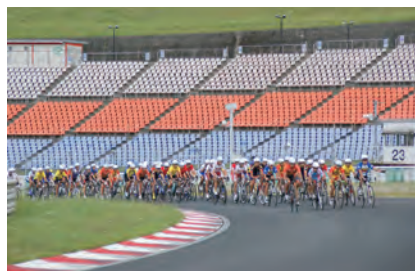
さらに普通の体育会系とは違って、自分の自転車は自分で整備しなければならないのでメカに関する知識も必要で、メンテナンスや部品にもお金がかかります。

しかしつらい坂道を乗り越えて、坂を下るときの他の陸の乗り物では味わえない、エンジン音もなく、ただ風を切る音だけ、まるで風になったかのような爽快さは格別なものです。

メカ好きだけど、運動もしたい、風になりたい…、そんな人にはもってこいの部活動です。

最後に、全国大会派遣の際の寄付、外部コーチなど支えてくださった保護者、教職員の皆様、心より感謝申し上げます。

来年度からは先輩が4年生になりインターハイには2人しか参加できなくなり、学校での入賞は厳しくなりますが個人種目に力を入れて2人での九州大会出場をめざし先輩の名に恥じないよう励んでいきたいです。



全国高等専門学校体育大会に参加してー女子バスケットボール部ー

メディア情報工学科 5 学年 八木澤 莉子

女子バスケットボール部は平成24年8月18日(土)～19日(日)の2日間に鳥取のコカ・コーラウエストスポーツパーク布勢総合運動公園体育館で開催された全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技に九州・沖縄地区代表として2連続の出場を果たしました。

2～5年生は去年全国大会を経験しており、また1年生は強力な戦力だったので今年こそは優勝をと意気込んでいました。私たちは2回戦まで勝ち進むことができました。

今年の全国高等専門学校体育大会は9チームのトーナメント形式で、1日目1試合、2日目1試合の計2試合を行いました。1日目第1回戦の対大阪府大高専では、前半こそ僅差で戦っていたものの、後半は得意の走るバスケットで点を離し、49-73で勝利することができました。2日目第2回戦の対八戸戦では、第2クォーターから大差をつけられ、苦しい戦いとなりましたが、駆けつけてくれた卒業生や先生方の応援に励まされ、最後まで折れることなく戦い抜くことができました。結果は90-38で負けてしまいましたが、全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技3位となり、去年よりも順位の下がった入賞となりましたが、来年の全国大会に繋がる良い成績を残すことができました。このように私たちが全国大会へ出場し結果を残せたのも、指導教員ならびに応援してくださった先生方、保護者、卒業生、在校生の皆さんの力があつたからこそだと思っています。

最後になりますが、私たち女子バスケットボール部の全国大会派遣に伴い、資金面で多くの方に支えて頂きました。心より感謝を申し上げます。

今年度も、日々感謝の気持ちを忘れず活動を続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



来て、見て、聞いて、 開こう、 世界への扉！

－「グローバル人材の育成」に関する講演会－

生物資源工学科では今年度、高専機構の支援を受けて「グローバル人材の育成」に関する講演会（全3回）を開催しました。「グローバル」という言葉の意味を学生自らが考え、何らかの行動を始めることを目的として、沖縄高専の学生諸君を「しびれさせる」2名のグローバル・リーダーが来島しました。

台風が接近し、羽田では次の便から欠航した状況下、パリからやってきた Ms. Kaori Murakami は、「プロになるためには「夢中になること」と「真似をすること」、自分の世界を広げるためには「好きなことを見つけること（自分を知る）」と「憧れの人を見つけること（世界を知る）」が近道だと教えてくれました。前日の大雪で出発が危ぶまれたオランダからの Dr. Gerard Robijn は、おいしいゴーダチーズとともに「挑戦することの意味」を運んでくれました。



そして最終回は身近なグローバル・リーダー（松栄先生、タンスリヤボン先生、兼城先生、杉本先生）が、実際にどうやって世界の扉を開いてきたのかを、自身が身につけた英語や日本語などで“熱く”、語ってくれました。「(英語が) Terrible is OK!」、「人より何倍も勉強しないと勉強の筋肉はつかない」、「どこの国に行っても挨拶は重要」、「必死に勉強した」、「基礎力を身につけよう!」。学生たちも自らの英語で質問に立ち、まさに「グローバル」への第一歩を踏み出しました。

地域連携事業 地域共同テクノセンター

沖縄高専では、地域共同テクノセンターを窓口として、地域社会との連携・交流の推進や教育・研究の充実ならびに人材育成に取り組んでいます。名護市・浦添市・うるま市との間で産業振興や人材育成等を目的として連携協定を締結しています。本年度は、うるま市の小学校3校にご来校いただき、沖縄高専の設備を利用して授業を受けていただきました。地域共同テクノセンターの主な事業として、沖縄高専施設見学会（本校）、沖縄高専フォーラム（那覇市）等を開催し、産業界との交流を深め、さらに、3D-CAD等各種講習会の開催、地域イベント（各産業まつり等）への参加を通して、沖縄高専の教育研究内容を地域へ発信しています。

理科教育支援として、本島および離島地域の小・中学校等への出前授業を積極的に実施し、ものづくりの面白さと科学への興味のいざないとしてお手伝いもを行っています。



沖縄の産業まつり「子ども科学体験教室」の一コマ▲



◀宜野湾市立
嘉数小学校での
出前授業の一コマ



うるま市立
具志川小学校の
出前授業の一コマ▶



◀沖縄高専フォーラム
「パネルディスカッション」
の一コマ

学生会より



平成 24 年度
学生会会長
平良 美奈子

こんにちは。平成 24 年度学生会会長、生物資源工学科 4 年の平良美奈子です。今年は 4 月の部活動紹介に始まり、体育祭や高専祭などの例年の行事に加え、文化競技大会や球技大会、交通安全週間やハロウィンイベントといった新しい行事を開催いたしました。どの行事も全学生や先生方の多大なる協力のもと成功を収めることができ、来年に繋がるものになったと確信しています。これまで引き継がれてきた伝統を進化させ、次の沖縄高専へと繋げるために。これからも皆様の協力のもと充実した学生生活をつくっていただけるよう活動していきます。

そして、私が学生会会長となって一年、責任ある役割もあとは卒業式を迎えるのみとなりました。3 月に行われる卒業式では、これまで大変お世話になった先輩方に気持ちよく旅立っていただけるよう、在校生による準備が進められています。御卒業なさる先輩方、保護者の皆様に心からの祝福を贈れるよう誠意を尽くして参ります。

結びに、学生会執行委員及び先生方、そして学生のみさんの協力に心より厚く御礼申し上げます。平成 25 年度も沖縄高専学生会をどうぞよろしくお願いいたします。



高専祭



体育祭

寮生会より



学生寮
男子副寮長
依 拓朗

こんにちは、学生寮の男子副寮長を務めております情報通信システム工学科 3 年の依拓朗と申します。

さて、平成 24 年度もあと 1 ヶ月で終わりをむかえ、来る 4 月からは新学期が始まります。今年度も私たち寮生会では様々なことに取り組んで参りました。1 月 22 日に行われました冬の寮祭では寮生、寮外生問わず大勢の学生が参加し、忙しい高専生にとって楽しい思い出となったと思います。また、住みやすい寮・きれいな寮を目指して毎月寮の大清掃を行っております。振り返ってみると様々なことに取り組みましたが、その一つ一つに寮生会を中心とした寮生全体の協力があったからこそ、無事全ての行事を成功におさめることができたのだと思っています。

数々の取り組みの中でも他高専との交流に力を入れて参りました。9 月には鈴鹿高専及び豊田高専へお伺いしたのですが、新設の沖縄高専とは違い歴史が深い分基盤がしっかりしており、両高専共に挨拶の励行が実践され、先輩と後輩の上下関係がしっかりと保たれていたという印象を受けました。

先程も申し上げましたように沖縄高専は新設校で学生寮においてもまだうまく機能していない部分もあり、寮生に不便な思いをさせてしまっているのが現状です。しかし、そのような部分を補修していき、その中で新設校ならではの特色を生かした学生寮づくりを寮生会と寮生が一丸となって行っていきたいと考えております。

平成 25 年度も沖縄高専学生寮をどうぞよろしくお願いいたします。

後援会会長挨拶



後援会 会長
中本 正泰

今春、沖縄高専をご卒業並びに修了される学生の皆様、本当におめでとうございます。

これまで、学業や研究活動をはじめ高専口ボコン、スポーツなど様々な分野で活躍し、めざましい実績を残され、沖縄高専の名を全国に示していただきました。

何事にも積極的に取り組む姿勢は、後輩にしっかりと受け継がれ、素晴らしい校風を築いていくものと確信しており、皆様のご尽力に対し深く敬意を表しております。

そして、沖縄高専から羽ばたいた先輩とともに、沖縄高専の誇りを胸に進学・就職先でそれぞれの地歩を固めるとともに、在学生に対するご指導・ご助言をお願いしたいと考えております。

さて、今年は、設立 10 周年となる記念すべき年であり、新たな一歩を踏み出す年でもあります。

後援会としても、学校、学生会及び同窓会と連携のもと、教育・研究活動や課外活動、進路指導等の支援を積極的に展開していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

保健室より

学生生活をより楽しく送るためには、“健康であること”が重要です。日頃より“自分の身体は自分で守る”ことを心がけ、健康管理を怠らないことが大切です。健康への過信や無関心は思いがけない病気を招くことが危惧されます。保健室では看護師が8時半から部活終了の午後7時まで在室し、心身両面からのサポートを行っております。怪我や体調不良のときだけではなく、悩みの相談も受けています。怪我の痛み、心の痛みも我慢せずに保健室を利用してください。保健室の隣は相談室となっており専門のカウンセラーが時間指定ですが在室しています。日々の小さな問題を先送りせずその日で解決して行きましょう。一人で苦しむより話すことで何か先のことが見えてきたりします。高専は5年間の長い学生生活です。どうぞ気軽に立ち寄り保健室へ関心を寄せてみてください。



本校看護師 左から岸本さん、武村さん

平成 24 年度の学生の保健室利用状況（相談室利用者含む）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
人数	114	151	125	116	35	34	158	74	106	146

今年度の保健室を訪れた学生は 1059 名で月平均 124 名（8、9 月の休業日を除く）です。訴えの多くは体調不良の学生で、3 台設置のベッドを利用しつつ出来るだけ早く授業へ復帰出来るように支援しています。5 月は健康診断後の指導や証明、10 月は怪我や体調不良、1 月はインフルエンザの影響と保健室利用者が急増です。インフルエンザは随時注意喚起を行い、学生や教職員の予防対策への協力で学級閉鎖を免れている状況です。沖縄県では 1 月 17 日にインフルエンザ注意報を発令し、早めのワクチン接種のほか、手洗いとうがいの徹底を呼び掛けています。休業期間中は生活リズムを乱さず元気に新年度を迎えてください。

4 年間お世話になりました（文責、武村）

平成 25 年度 学生募集結果一覧

◆推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	17	1	15	1
情報通信システム工学科	13	2	10	2
メディア情報工学科	9	8	5	7
生物資源工学科	4	11	4	11
男女別計	43	22	34	21
合 計	65		55	

◆専門実習（自己推薦）による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	25	3	6	1
合 計	28		7	

◆学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	45	0	27	0
情報通信システム工学科	50	2	27	2
メディア情報工学科	34	5	21	3
生物資源工学科	28	15	20	5
男女別計	157	22	95	10
合 計	179		105	



■ 平成 25 年度 (前期) 行事予定表 ■

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1 月	春季休業 在校生開寮	1 水	第 1 回キャリア支援室長 講話 (1 年対象)	1 土	県高校総体	1 月		1 木	前学期期末試験	1 日	
2 火		2 木		2 日		2 火		2 金		2 月	
3 水	入学式 新入生入寮 入寮式・開寮式・対面式	3 金	憲法記念日	3 月		3 水	第 2 回キャリア支援室長 講話 (2 年対象)	3 土		3 火	
4 木	新入生オリエンテーション 健康診断・LHR・校長講話 (5 年生) 課題確認試験 (数学・理科 1 年) 教科書販売・新入生のノート・PC 設定会	4 土	みどりの日	4 火		4 木		4 日		4 水	
5 金	オリエンテーション 健康診断 教科書販売・新入生のノート・PC 設定会 LHR・校長講話 (専攻科生)	5 日	こどもの日	5 水		5 金		5 月		5 木	
6 土		6 月	振替休日	6 木		6 土		6 火	期末試験予備日 中学校教員等対象説明会	6 金	
7 日		7 火	専攻科学力選抜願書受付	7 金		7 日		7 水	試験返却日	7 土	学校説明会 (宮古、八重山)
8 月	全学年授業開始 専攻科推薦選抜願書受付	8 水	金曜日の授業 第 1 回定期学生会議会	8 土		8 月		8 木	学生寮居室点検・清掃	8 日	
9 火		9 木		9 日		9 火		9 金		9 月	
10 水	開校記念日 (授業日)	10 金		10 月	中間試験実施期間	10 水		10 土	閉寮式	10 火	
11 木		11 土	地域清掃 (学生会主催)	11 火	沖縄高専交通安全祈願の日 交通安全期間	11 木		11 日	閉寮	11 水	
12 金		12 日		12 水		12 金	九州・沖縄地区高専体育大会	12 月	体育祭の振替休日 完全閉寮 中学校教員等対象説明会	12 木	
13 土		13 月		13 木		13 土		13 火	夏季休業	13 金	
14 日		14 火		14 金		14 日		14 水	夏季一斉休業	14 土	
15 月	学生寮避難訓練	15 水	性に関する講演会 (2 年生) 薬物に関する講演会 (1 年生対象)	15 土		15 月	海の日 (授業日)	15 木		15 日	
16 火	部活動紹介 (学生会主催)	16 木		16 日		16 火		16 金		16 月	敬老の日
17 水	カウンセラー講話 (2 年生) 交通安全講習会 (全学生対象)	17 金		17 月		17 水	学生寮月例大掃除	17 土		17 火	
18 木		18 土	専攻科学力選抜試験	18 火		18 木		18 日		18 水	
19 金		19 日		19 水	前期球技大会 (学生会主催) HyperQU アンケート (1 ~ 3 年)	19 金	臨時休業日 (7 月 15 日海の日振替) 九州・沖縄地区高専体育大会	19 月		19 木	
20 土	専攻科推薦選抜試験	20 月		20 木		20 土	学校説明会 (那覇)	20 火		20 金	開寮 県高校新人大会 (陸上)
21 日		21 火		21 金		21 日	学校説明会 (沖縄市)	21 水	夏季一斉休業	21 土	沖縄高専 創立 10 周年記念行事
22 月		22 水	性に関する講演会 (1 年生) 学生寮月例大掃除	22 土		22 月	編入学試験願書受付 (予定) 金曜日の授業	22 木		22 日	
23 火		23 木		23 日	慰霊の日	23 火		23 金	編入学試験 (予定)	23 月	開寮式 県高校新人大会 (水泳) 秋分の日
24 水	カウンセラー講話 (1 年生) 学生寮月例大掃除 第 2 回合同企業説明会	24 金	専攻科学力選抜結果通知 県高校総体 (サッカー)	24 月	公開授業週間・寮見学会 学級・学科懇談会・ 保護者面談	24 水	第 2 回定期学生会議会	24 土		24 火	後期授業開始
25 木	専攻科推薦選抜結果通知	25 土	県高校総体 (自転車)	25 火		25 木		25 日		25 水	
26 金		26 日	後援会総会 (予定) (ちゃたんニライセンター)	26 水	学生寮月例大掃除	26 金		26 月		26 木	
27 土	体育祭 (登校日)	27 月		27 木		27 土	サマースクール	27 火		27 金	
28 日		28 火		28 金		28 日		28 水		28 土	卒業生と在校生の 意見交換会 (仮) (後援会主催)
29 月	昭和の日	29 水		29 土	オープンキャンパス	29 月		29 木		29 日	
30 火	月曜日の授業	30 木	中間試験 (複数同時実施科目)	30 日		30 火	予備日	30 金	編入学試験合格発表 (予定)	30 月	専攻科学力選抜入学 確約書提出期限
		31 金	県高校総体 (総合開会式)			31 水	前学期期末試験	31 土			
備 考	・蔵書検索講習会 (本科 1・2 年) ・産学連携協力会理事会・総会・懇談会 (予定) (ロウゾールホテル那覇)	・寮生総会 (寮生会)		・交通安全月間 (学生会主催) ・校内美化清掃 (学生会主催)		・夏の寮祭 (寮生会)		・校内美化清掃 (学生会主催) ・図書館蔵書点検		・産学連携協力会施設見学会 (予定) ・寮居室クリーニング ・寮施設設備等修繕 ・寮トイレ、居室等重点清掃 ・寮廊下ワックスがけ	